

# 農業掲示板 9月



## 水 稲

### 刈り取り適期・乾燥・籾すり・調製



・本年は、ほ場によりばらつきがありますが、出穂は平年並からやや遅い傾向にあります。今後、高温により成熟期が平年より早まる可能性がありますので、適期刈り取りを行い、刈り遅れがないよう注意しましょう！

#### （刈り取り適期）

・減収や品質低下を防ぐためにも適期刈り取りを行いましょう。刈り取り時期の目安としては、稔実もみ(シイナを除く)の85%が黄化したところとなります。  
注)刈り取りが早すぎると青米や未成熟粒が多くなります。  
また、遅れると胴割粒・茶米などが増え、米粒の光沢も劣ります。

#### （コンバインによる刈り取り時の注意事項）

- ・効率よく作業が行える時間帯は午前11時頃から午後3時頃となります。朝露が残っているときや雨天時に刈り取りを行うと飛散による収量減や籾の詰まり、機械の故障を招きやすくなるので注意しましょう。
- ・高水分の籾を長時間放置すると「ヤケ米(発酵による変色粒)」が発生します。刈り取り面積は乾燥機の容量に合わせた刈り取りを行いましょう。
- ・事故防止のため機械の調整や清掃は必ずエンジンを止めて行いましょう。

#### （乾燥）

- ・急激な乾燥や過乾燥は胴割米の原因となるので注意しましょう。
- ・必ず張込み量に準じた温度設定を行い、仕上げ水分は14.5%～15.0%にします。

#### （籾すり・調製）

- ・乾燥機停止直後の籾すりは、籾の温度(穀温)が高く、肌ずれや胴割粒となる恐れがありますので、十分に放冷した後に籾すりを行いましょう。

## 黒大豆・黒枝豆

### 黒大豆・黒枝豆の病害虫防除、水管理、台風・大雨対策



#### 【病害虫防除】

- ・特産栽培こよみを基本に適期防除を行います。
- ・黒大豆(実どり)と枝豆とは使用できる農薬が違う場合があります。使用前に必ず栽培こよみや農薬容器、袋のラベル等で確認しましょう。

#### 【台風・大雨対策】

- ・台風や集中豪雨の場合、停滞水とならないよう排水対策に努めましょう。
- ・台風通過後はZポルドー水和剤で株元までしっかりと防除を行いましょう。

#### 【水管理】

- ・開花期から莢伸長期にかけての干ばつは、着莢や莢の肥大に悪影響を及ぼすので、日照が続くようであれば畝間灌水を行うなど土壌水分を適正に保つように行い、気温の低い時間帯(日没後～早朝)に走水を行います。日中の灌水は根腐病などの原因となるため避けましょう。

	農薬名	希釈倍数	使用回数	使用時期	備 考	10a当たりの散布量
（殺菌剤）	Zポルドー水和剤	500倍	—	—		100～300ℓ
	ランマンフロアブル	1000倍	3回	収穫7日前 収穫3日前	黒大豆の場合 枝豆の場合	100～300ℓ
	ライメイフロアブル	2000倍	3回	収穫7日前 収穫3日前	黒大豆の場合 枝豆の場合	100～300ℓ
（殺虫剤）	トレボン乳剤	1000倍	2回	収穫14日前		100～300ℓ
	アディオン乳剤	3000倍	3回	収穫7日前	黒大豆の場合	100～300ℓ
	アディオン乳剤	3000倍	3回	収穫14日前	枝豆の場合	100～300ℓ

# 農業掲示板 9月の農作業



## ピーマン

### 管理について



#### 〈排水対策〉

- ・ピーマンの根は水がたまるとうすぐ傷みやす。大雨でもすみやかに排水できるよう、排水溝をおとし口までしっかりつなぎ、水がたまらないようにしておきます。降雨後はきちんと排水できているかどうかを確認して、崩れた溝はつなぎ直してください。

#### 〈灌水・追肥〉

- ・谷が白く乾く前に、地温の高い日中を避けて早朝か夕方に灌水します。灌水量は谷に水を走らせる程度とし、絶対に水をためないようにしてください。
- ・また、肥切れさせないよう栽培こよみを参考に10～15日おきに追肥(NK化成2号)を行います。土壌水分が無ければ肥料が吸えないので、灌水時など土に水分のあるときに施肥します。

#### 〈病害虫対策〉

- ・病気は多湿条件下で、害虫は高温乾燥条件下で発生しやすくなります。よく観察して早期発見に努めてください。病害虫を見つけたらできるだけ被害部分を除去し、栽培こよみを参考に薬剤散布を行います。
- ・ウイルス病は治らないので見つけ次第株ごと抜き取り、ほ場外に持ち出して処分してください。また、被害株に触れた手やはさみなどで、健全な株に触れないようにしてください。

#### 〈尻腐れ対策〉

- ・尻腐れは、土壌水分不足や暑さで根が弱り、根から吸収するカルシウムが不足して発生する生理障害です。適切な灌水を行うとともに、晴天が続いて地温が上がってきたら、10日に1回程度カルプラス500倍液を葉面散布します。

#### 〈収穫〉

- ・出荷規格に合わせ、穫り遅れないよう、適期に収穫します。実がつきすぎると、樹勢が低下し、果実はそれ以上に大きくならず赤果になります。樹勢を維持するために、赤果は、早めに収穫し、少しでも長く、多くの実を収穫できるようにします。

## 茶

### 土づくり・施肥・病害虫防除



- ・良質な一番茶を生産するため、病害虫被害のない葉を秋～冬に多く残すことが大切です。
- ・特に茶樹更新を行ったほ場では、その後新たに萌芽してきた芽を大切に、樹勢の早期回復を図りましょう。

#### 〈土づくり〉

- ・秋～翌春まで肥料養分を吸収する新根を伸ばすため、土づくりを8月中・下旬に行います。酸度矯正のため、有機石灰セルカを10aあたり100kg施用し、あわせて牛ふん堆肥を10aあたり2,000kg(もしくはアヅミンを10aあたり40kg)施用し深耕します。

#### 〈施肥〉

- ・秋肥は春肥よりも効率的で収量にあたるウエイトの高い施肥となります。夏までの摘採で弱った樹勢を回復させる目的があり、10～11月の光合成が活発な時期に吸収利用されます。
- ・土づくりの後、9月中旬までに10aあたり油粕140～240kgと、茶有機配合40～60kgを施用し、土と混和しましょう。

#### 〈病害虫防除〉

- ・残暑が続くと害虫の多発が懸念されます。また、秋になり気温が下がりはじめると炭そ病や輪斑病がよく見られますので、栽培こよみに基づき防除をしましょう。



今後の

24時間OK /  
農業技術テレホンサービス  
電話:079-556-3384

8月13日▶8月26日

黒大豆と小豆の  
病害虫防除

8月27日▶9月9日

山の芋の防除と  
水管理

9月10日▶9月23日

玉ねぎ栽培の  
ポイント

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00～12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)